

2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	風荷重小委員会	主 査 名：河井宏允 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：中島正愛 主 査 名：河井宏允
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・(2008 年度) 建築物荷重指針の改訂に向けたロードマップの検討, CFD 耐風設計法、外装材の耐風性能評価、突風に対する耐風設計、仮設構造物を含めた設計用再現期間の設定、設計資料の電子提供の討議, 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価に関するシンポジウムの開催 (東京) ・(2009 年度) 2008 年度の検討の継続, 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価に関するシンポジウムの開催 (大阪) ・(2010 年度) 荷重指針改定に向けての実質的な作業の開始 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 河井宏允 (京都大学)・奥田泰雄 (建築研究所)・植松 康 (東北大学)・大熊武司 (神奈川大学)・大竹和夫 (竹中工務店)・片岡浩人 (大林組)・片桐純治 (泉創建)・菊池浩利 (清水建設)・近藤宏二 (鹿島建設)・谷口徹郎 (大阪市立大学)・田村哲郎 (東京工業大学)・田村幸雄 (東京工芸大学)・寺崎浩 (大成建設)・西村宏昭 (日本建築総合試験所)・吉江慶祐 (日建設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・CFD 耐風設計法 WG：CFD での予測精度と設計上必要な精度の関係を明らかにする。CFD で耐風設計を行う場合の特徴を明らかにし、設計体系としての新規性を吟味する。CFD による耐風設計を実際に行い、その妥当性を明らかにする。 ・外装材耐風性能 WG：2008 年に纏めた建築物の耐風設計資料「建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価」を踏まえて、外装材の耐風設計ガイドラインの検討を行う。建築物荷重指針の改訂に向けた作業を行う。 ・耐風設計体系検討 WG：海外の風荷重規定との比較検討結果等を踏まえて、竜巻等の突風に対する耐風設計のあり方、仮設構造物を含めた設計用再現期間の設定方法、設計資料の電子提供の方法などについて討議し、建築物荷重指針改定のプロットを作成する。 	
2009 年度予算	340,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv. ai. j. or. jp/kouzou/s27/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価に関するシンポジウム (2009 年 11 月大阪) 76 名 資料：建築物の耐風設計資料 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. CFD 耐風設計法 WG、外装材耐風性能 WG、耐風設計体系検討 WG を設置し、ほぼ予定どおりに進んでいる。外装材の耐風設計シンポも東京、大阪で開催し、多数の参加者を得、建築構造設計における風荷重の重要性の浸透に貢献した。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会旅費などの関係から東京以外の委員が極めて少ない。今後は、電子会議などを通じて、東京以外の関係者の意見も積極的に取り入れられるような活動をめざしたい。